

日本獣医生命科学大学
ガバナンス・コード
〈第 1 版〉

令和 3 年 10 月 1 日
学校法人 日本医科大学
日本獣医生命科学大学

目 次

第1章 私立大学の自主性・自律性(特色ある運営)の尊重	1
1-1 建学の精神	
1-2 教育と研究の目的(私立大学の使命)	
第2章 安定性・継続性(学校法人運営の基本)	4
2-1 理事会	
2-2 理事	
2-3 監事	
2-4 評議員会	
2-5 評議員	
第3章 教学ガバナンス(権限・役割の明確化)	8
3-1 学長	
3-2 教授会	
第4章 公共性・信頼性(ステークホルダーとの関係)	9
4-1 学生に対して	
4-2 教職員等に対して	
4-3 社会に対して	
4-4 危機管理及び法令遵守	
第5章 透明性の確保(情報公開)	12
5-1 情報公開の充実	

日本獣医生命科学大学ガバナンス・コードは、日本私立大学協会憲章「私立大学版ガバナンス・コード」に準拠し策定しています。

策定年月日 第1版 令和3年10月1日

第1章 私立大学の自主性・自律性(特色ある運営)の尊重

私立大学の存在意義は、建学の精神・理念にあり、それに基づく独特の学風・校風が自主性・自律性として尊重され、個性豊かな教育・研究を行う機関として発展してきました。

私立大学は、社会の発展と安定に不可欠な極めて厚い中間層の形成に大きく寄与してきました。また、私立大学は地域社会において高等教育へのアクセスの機会均等と知的基盤としての役割も果たしてきました。

今後とも、学校法人日本医科大学及びその設置する日本獣医生命科学大学は、建学の精神に基づく、私立大学としての使命を果たしていくために、また、教職員はその使命を具現する存在であるために、日本私立大学協会の制定した「私立大学版ガバナンス・コード」を規範にし、適切なガバナンスを確保して、時代の変化に対応した大学づくりを進めていきます。

また、中期的な計画を策定・公表し、学生をはじめ様々なステークホルダーに対し、私立大学の教育、研究及び社会貢献の機能を最大化し、価値の向上を目指していきます。

1-1 建学の精神

(1) 建学の精神・理念

日本獣医生命科学大学は、明治 14(1881)年、東京都文京区の名刹護国寺に日本初の私立獣医学校として誕生しました。以後、東京獣医学校、日本獣医学校に校名変更し、昭和 24(1949)年に獣医畜産学部獣医学科と畜産学科を置く日本獣医畜産大学として設立を認可され、昭和 27(1952)年には学校法人日本医科大学と合併し、以後、学校法人日本医科大学傘下の大学として、昭和 37(1962)年には大学院獣医学研究科、昭和 42(1967)年には畜産食品工学科を新たに設置する 1 学部 3 学科、平成 15(2003)年には獣医畜産学部を獣医学部と応用生命科学部(2 学部制)に改組、平成 17(2005)年には動物看護師などの獣医療技術専門職を育成する日本初の 4 年制学科として獣医保健看護学科の設置、平成 18(2006)年には日本獣医生命科学大学への校名変更など組織改革を断行し、健全に成長してきました。

令和 3(2021)年は創立 140 周年に当たり、今日の学是は「敬譲相和」、到達目標を「愛と科学の聖業を培う」、教育理念は「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」と定め、その意味は、謙譲と協調、慈愛と人倫を育む科学者の創生を説いた箴言であり、本学の目的は、生命科学新時代・環境科学新時代・食品科学新時代の開拓者として、総合的な《生命科学の知と技》を練磨するとともに、《人間愛・動物愛》の豊かで清冽な人材の育成にあります。

令和 13(2031)年の創立 150 周年を見据えた取り組みとして、平成 28(2016)年に大学の基幹となる「建学の精神」「理念」「使命・目的」を再確認し、ミッション・ステートメント「Connect with the Future(～動物と人をつなぎ、都市と地方をつなぐ、獣医・生命科学の情報発信拠点～)」を策定するとともに、本学の将来像(ビジョン)と、それを実現するための重点施策、及び中期事業計画(アクションプラン)が策定されました。

「教育」「研究」「学生支援」「動物医療センター」「管理運営」「社会貢献・産官学連携」それぞれでつなぐミライが6つのビジョンです。

また、本学は他大学に比べ、学生に対応する教職員数が多く、学生同士、教職員との距離が近いという学生にとって大きなアドバンテージ・特性を活かし、学生を均一化せず、その多様性を認め、個性を生かし伸ばすことを特徴とした大学としてさらなる変革を目指し、「多様性を理解し、個を磨く大学」の実現に向けた指針としています。

令和における生命科学、環境科学、食品科学の開拓者として、総合的な生命科学の知と技を練磨するとともに、同窓生は優に1万9千人を超え、多くの獣医師、研究者、教育者、専門職獣医療人を輩出することで、社会に貢献し続けています。

(2) 建学の精神・理念に基づく人材像

日本獣医生命科学大学は、規模が小さい良さを生かして、学生と近い距離で日々向かい合いながら学問的・人間的成長を支援するとともに、学問だけではなく様々な経験を通して、人間力の向上を目指す「自立する学生」となってこの大学を卒業し、社会に貢献できる生命科学人材となることを期待しています。

今後、生命科学、環境科学、食品科学を担う意欲を持った学生と、そして地域や社会の皆様とともに、武蔵境の小さくても楽しい学び舎で一緒に学べることを期待しています。

1-2 教育と研究の目的(私立大学の使命)

(1) 建学の精神・理念に基づく教育目的等

① 大学の教育目的等

日本獣医生命科学大学の学是は「敬讓相和」、教育理念は「愛と科学の心を有する質の高い獣医師と専門職及び研究者の育成」と定め、その意味は、謙讓と協調、慈愛と人倫を育む科学者の創生を説いた箴言であり、本学の目的は、生命科学新時代・環境科学新時代・食品科学新時代の開拓者として、総合的な《生命科学の知と技》を練磨するとともに、《人間愛・動物愛》の豊かで清冽な人材の育成にあります。

学校教育法の定めるところにより、獣医学、獣医保健看護学、動物科学及び食品科学に須要となる学術を教授研究し、あわせて人格を陶冶することを目的とし、この目的を達成するために、広く獣医学、獣医保健看護学、動物科学及び食品科学を世界に求め、その蘊奥を極め、かつ、堅実公正なる獣医・獣医保健看護・動物・食品の技術者を養成します。

② 獣医学部の教育目的等

獣医学部は、獣医学及び獣医保健看護学に必要な学術を教育・研究し、併せて学生の人格・素質を陶冶し、さらに獣医学と獣医保健看護学の基礎・臨床及び社会的意義について充分認知させるとともに、生命倫理を踏まえ、誠実・公正なる判断と対応ができる人材の育成を目的とします。伝統に培われた進取の気風に誇りを持ち、獣医学教育のトップランナーであり続けます。

③ 応用生命科学部の教育目的等

応用生命科学部は、食資源動物の生産や管理、食品の栄養や品質管理及び安全性等に関する学理の探求と技術の開発をするとともに、人類と動物の福祉に貢献できる資質の優れた動物科学及び食品科学における専門職の育成を目的とします。動物科学科の強みである生命科学と、食品科学科の強みである化学の専門的知見を融合し、ユニークな研究を生み出すなど、相乗効果を活かした教育・研究成果を挙げていくと同時に得られた研究成果を積極的に発信します。

④ 大学院獣医生命科学研究科の教育目的等

獣医生命科学研究科は、教育理念及び目的達成のために、獣医学、獣医保健看護学及び応用生命科学領域における技術革新、研究水準の向上に対する社会的要請の高まりに対応できる優秀な人材を世に輩出して社会に貢献することを目的とします。

(2) 中期的な計画の策定と実現に必要な取り組みについて

- ① 安定した経営を行うために、認証評価を踏まえて中期的な学内外の環境の変化の予測に基づき、適切な中期的な計画の検討・策定をします。
- ② 中期的な計画の進捗状況、財務状況については、理事会、評議員会、合同教授会、学部教授会及び大学戦略会議で進捗状況を管理把握し、その結果を内外に公表するなど、透明性ある法人運営・大学運営に努めています。
- ③ 財政的な裏付けのある中期的な計画の実現のために、外部理事を含めた経営陣全体や、経営陣を支えるスタッフの経営能力を高めていきます。
- ④ 改革のために、教職協働の観点からも事務職員の人材養成・確保など事務職員の役割を一層重視します。
- ⑤ 経営陣と教職員が中期的な計画を共有し、教職員からも改革の実現に際して積極的な提案を受けるなど法人全体の取り組みを徹底します。
- ⑥ 中期的な計画に盛り込む内容

ア 教学

イ 研究

ウ 学生支援

エ 社会貢献

オ 管理運営

(3) 私立大学の社会的責任等

- ① 自主的に運営基盤の強化を図るとともに、本学の教育の質の向上及び経営の透明性の確保を図るよう努めます。
- ② 学生を最優先に考え、文部科学省、日本私立学校振興・共済事業団、教職員、学生父母、卒業生、地域社会構成員等他のステークホルダーとの関係を保ち、公共性・地域貢

献等を念頭に学校法人経営を進めます。

- ③ 私立大学の目的達成のためには、多様性への対応が不可欠との認識に立ち、男女共同参画社会への対応や、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針(平成 27 年 2 月 24 日閣議決定)をはじめ、多様性への対応を実施します。

第 2 章 安定性・継続性(学校法人運営の基本)

私立大学は、社会から、教育・研究及び成果の社会への還元という公的使命を負託されており、社会に対して説明責任を負っています。従って、その設置者である学校法人は、経営を強化しその安定性と継続性を図り、私立大学の価値の向上を実現し、その役割・責務を適切に果たします。学校法人は、このような役割・責務を果たすため、自律的なガバナンスに関する基本的な考え方及び仕組みを構築します。

2-1 理事会

(1)理事会の役割

① 意思決定の議決機関としての役割

ア 理事会は、学校法人の経営強化を念頭におき業務を決し、理事の職務執行を監督します。

② 理事会の議決事項の明確化等

ア 理事会において議決する学校法人における重要事項を寄附行為等に明示します。

イ 理事会において議決された事項は、議事録に記録し、保管します。

ウ 理事会へ業務執行者から適切な報告がなされるよう留意します。

③ 理事及び大学運営責任者の業務執行の監督

ア 理事会は、理事及び設置大学の運営責任者(学長及び学部長等)に対する実効性の高い監督を行うことを主要な役割・責務の一つと捉え、適切に大学の業務等の評価を行い、その評価を業務改善に活かします。

イ 理事会は、適時かつ正確な情報共有が行われるよう監督を行うとともに、内部統制やリスク管理体制を適切に整備します。

④ 学長への権限委任

ア 学長が任務を果たすことができるようにするために、大学の校務を掌るにあたり必要な権限を学長に委ねています。

イ 学長が教務部長、研究部長等を置くなど、各々担当事務を分担させ、管理する体制としています。

ウ 所掌する校務及び所属教職員の範囲については、可能な限り規程整備等による可視化を図ります。

⑤ 実効性のある開催

ア 理事会は、年間の開催計画を策定し、審議事項については事前に決定して全理事で共有します。

イ 審議に必要な時間は十分に確保します。

- ⑥ 役員(理事・監事)は、(ア)その任務を怠り、学校法人に損害を与えた場合、(イ)その職務を行う際に悪意又は重大な過失により第三者に損害を与えた場合、当該役員は、これを賠償する責任を負います。
- ⑦ 役員(理事・監事)が学校法人又は第三者に生じた損害を賠償する責任を負う場合、他の役員も当該損害を賠償する責任を負うときは、これらの者は連帯して責任を負います。
- ⑧ 役員(理事・監事)の学校法人に対する責任が加重とならないよう損害賠償責任の減免の規定を整備します。
- ⑨ 理事会の議事について特別の利害関係を有する理事は、議決に加わることはできません。

2-2 理事

(1)理事の責務(役割・職務・監督責任)の明確化

- ① 理事長は、学校法人を代表し、その業務を総理します。
- ② 理事長を補佐する理事として、常務理事を置き、各々の役割のほか、理事長の代理権限順位も明確に定めます。
- ③ 理事長及び理事の解任については、寄附行為に明確に定めます。
- ④ 理事は、法令及び寄附行為を遵守し、学校法人のため忠実にその職務を行います。
- ⑤ 理事は、善管注意義務及び第三者に対する賠償責任義務を負います。
- ⑥ 理事は、学校法人に著しい損害を及ぼすおそれのある事実を発見した場合は、これを理事長及び監事に報告します。
- ⑦ 学校法人と理事との利益が相反する事項については、理事は代表権を有しません。また、利益相反取引を行おうとするときは、理事会において当該取引について事実を開示し、承認を受ける必要があります。

(2)学内理事の役割

- ① 教職員である理事は、知識・経験・能力を活かし、教育・研究、経営面について、大学の持続的な成長と中長期的な安定経営のため適切な業務執行を推進します。
- ② 教職員として理事となる者については、教職員としての業務量などに配慮しつつ、理事としての業務を遂行します。

(3)外部理事の役割

- ① 複数名の外部理事(私立学校法第 38 条第 5 項に該当する理事)を選任します。
- ② 外部理事は、学校法人の経営力・マネジメントの強化のため、理事会において様々な視点から意見を述べ、理事会の議論の活発化に大きく寄与し、理事としての業務を遂行します。

- ③ 外部理事には、審議事項に関する情報について理事会開催の事前・事後のサポートを十分に行います。

(4) 理事への研修機会の提供と充実

全理事(外部理事を含む)に対し、十分な研修機会を提供し、その内容の充実に努めます。

2-3 監事

(1) 監事の責務(役割・職務範囲)について

- ① 監事は、善管注意義務及び第三者に対する賠償責任義務を負います。
- ② 監事は、その責務を果たすため、事前に定めた学校法人日本医科大学監事監査規程に則り、理事会その他の重要会議に出席することができます。
- ③ 監事は、学校法人の業務、財産の状況及び理事の業務執行の状況を監査します。
- ④ 監事は、学校法人の業務等に関し不正の行為、法令違反、寄附行為に違反する重大な事実があることを発見した場合、所轄庁に報告し、又は理事会・評議員会へ報告します。さらに、理事会・評議員会の招集を請求できるものとします。
- ⑤ 監事は、理事の行為により学校法人に著しい損害が生じるおそれがあるときは、当該理事に対し当該行為をやめることを請求できます。

(2) 監事の選任

- ① 監事の独立性を確保する観点を重視し、理事長は評議員会の同意を得て理事会の審議を経て、監事を選任します。
- ② 監事は2人以上3人以内置くこととします。
- ③ 監事の業務の継続性が保たれるよう、監事相互の就任・退任時期について十分考慮します。

(3) 監事監査基準

- ① 監査機能の強化のため、学校法人日本医科大学監事監査規程を作成します。
- ② 監事は、監査計画を定め、関係者に通知します。
- ③ 監事は、学校法人日本医科大学監事監査規程に基づき監査を実施し、監査結果を具体的に記載した監査報告書を作成し、理事会及び評議員会に報告し、これを公表します。

(4) 監事業務を支援するための体制整備

- ① 監事、公認会計士及び監査室の三者による監査結果について、意見を交換し監事監査の機能の充実に図ります。
- ② 監事に対し、十分な研修機会を提供し、その研修内容の充実に努めます。
- ③ 学校法人は、監事に対し、審議事項に関する情報について理事会開催の事前・事後のサ

ポートを十分に行うための監事サポート体制を整えます。

④ その他、監事の業務を支援するための体制整備に努めます。

2-4 評議員会

(1) 諮問機関としての役割

次に掲げる事項について、理事長は、評議員会に対し、あらかじめ、評議員会の意見を聞きます。なお、諮問事項に関して特別の利害関係を有する評議員は、議決に加わるできません。

① 予算、事業計画に関する事項

② 中期的な計画の策定

③ 借入金(当該会計年度内の収入をもって償還する一時借入金を除く。)及び重要な資産の処分に関する事項

④ 役員報酬に関する基準の策定

⑤ 寄附行為の変更

⑥ 合併

⑦ 私立学校法第 50 条第 1 項第 1 号(評議員会の議決を要する場合を除く。)及び第 3 号に掲げる事由による解散

⑧ 収益を目的とする事業に関する重要事項

⑨ その他、学校法人の業務に関する重要事項で寄附行為をもって定めるもの

(2) 評議員から意見を引き出す議事運営方法の改善に努めます。

(3) 評議員会は、学校法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴することができます。

(4) 評議員会は、監事の選任に際し、理事長が評議員会の同意を得るための審議をします。その際、事前に理事長は当該監事の資質や専門性について十分検討します。

2-5 評議員

(1) 評議員の選任

① 評議員の人数は、理事人数に対して十分な人数を選任します。

② 評議員となる者は、次に掲げる者としています。

ア 日本医科大学長及び日本獣医生命科学大学長

イ 日本医科大学大学院医学研究科長、日本医科大学医学部長、同基礎科学主任、同附属各病院長、日本獣医生命科学大学大学院獣医生命科学研究科長、日本獣医生命科学大学獣医学部長及び同応用生命科学部長

ウ 学校法人日本医科大学職員のうちから、理事会において選任した者及び日本医科大学
附属病院看護部長

エ 学校法人日本医科大学の設置する大学を卒業した者で年齢 25 年以上の者のうちから、
理事会において選任した者

オ 学識経験者(学校法人日本医科大学の職員及び学校法人日本医科大学の設置する
大学の卒業生を除く。)のうちから、理事会において選任した者

- ③ 学校法人の業務若しくは財産状況又は役員の業務執行について、意見を述べ若しくは諮
問等に答えるため、多くのステークホルダーから、広範かつ有益な意見具申ができる有識
者を選出します。
- ④ 評議員の選任方法は、各選出区分により推薦された者について、当該候補者を理事会が
選任する扱いとしています。

(2) 評議員への研修機会の提供と充実

- ① 学校法人は、評議員に対し審議事項に関する情報について、評議員会開催の事前・事
後のサポートを十分に行います。
- ② 学校法人は、評議員に対し、十分な研修機会を提供し、その研修内容の充実に努めます。

第3章 教学ガバナンス(権限・役割の明確化)

学長の任命は、日本獣医生命科学大学学長選任規程に基づき、「理事会の承認を経て
理事長が任命する」とあり、日本獣医生命科学大学組織規則において、「学長は、本学の学
務を総括し、所属職員を統督する。」としています。

私立学校法において「理事会は、学校法人の業務を決する」とありますが、理事会は、理事
会の権限の一部を学長に委任しています。理事会及び理事長は、大学の目的を達成するた
めの各種政策の意思決定、学部長等の任命、教員採用等については、学長の意向が十分に
反映されるように努めます。

3-1 学長

(1) 学長の責務(役割・職務範囲)

- ① 学長は、日本獣医生命科学大学学則及び日本獣医生命科学大学大学院学則に掲げる
以下の目的を達成するため、リーダーシップを発揮し、大学教学運営を統括し、所属教職
員を統督します。

【日本獣医生命科学大学学則第 1 条第 1 項】

日本獣医生命科学大学は、学校教育法の定めるところにより、獣医学、獣医保健看護
学、動物科学及び食品科学に須要なる学術を教授研究し、あわせて人格を陶冶することを
目的とする。

【日本獣医生命科学大学大学院学則第1条第1項】

日本獣医生命科学大学大学院は、獣医学、獣医保健看護学及び応用生命科学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与するとともに、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

- ② 学長は、自ら理事会の構成員であることを十分意識して、理事長のもと教学ガバナンスについてその権限を行使します。
- ③ 所属教職員が、学長方針、中期的な計画、学校法人経営情報を十分理解できるよう、これらを積極的に周知し共有することに努めます。

(2)学長補佐体制(獣医生命科学研究科長・学部長の役割)

- ① 獣医生命科学研究科長の役割については、日本獣医生命科学大学組織規則において「研究科長は、学長を補佐し、大学院獣医生命科学研究科の教育・研究に関する業務を統括する。」としています。
- ② 学部長の役割については、日本獣医生命科学大学組織規則において「学部長は、学長を補佐し、獣医学部又は応用生命科学部の教育・研究に関する業務を統括する。」としています。

3-2 教授会

(1)教授会の役割(学長と教授会の関係)

大学の教育研究の重要な事項を審議するために合同教授会、学部教授会を設置しています。審議する事項については日本獣医生命科学大学教授会規則に定めています。

ただし、学校教育法第93条に定められているように、教授会は、定められた事項について学長が決定を行うに当たり意見を述べる機関であり、学長の最終判断が教授会の審議結果に拘束されるものではありません。

第4章 公共性・信頼性(ステークホルダーとの関係)

私立大学は、常に時代の変化に対応した公共性と信頼性が確保されなければなりません。建学の精神・理念に基づき自律的に教育事業を担う私立大学は、こうした高い公共性と信頼性のもとでの社会的責任を十二分に果たして行かねばなりません。ステークホルダー(学生・保護者、同窓生、教職員等)はもとより、広く社会から信頼され、支えられるに足る存在であり続けるために、公共性と信頼性を担保する必要があります。

4-1 学生に対して

- (1)学生の学びの基礎単位である学部等においても、3つの方針(ポリシー)を明確にし、入学

から卒業に至る学びの道筋をより具体的に明確にします。

① 学部ごとの3つの方針(ポリシー)

ア 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

イ 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ウ 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

② 自己点検・評価を実施し広く社会に公表するとともに、その結果に基づき学生の学修成果と進路実現にふさわしい教育の高度化、学修環境・内容等のさらなる整備・充実に取り組みます。

③ ダイバーシティ・インクルージョン(多様性の受容)の理念を踏まえ、ハラスメント等の健全な学生生活を阻害する要因に対しては、学内外を問わず毅然かつ厳正に対処します。

4-2 教職員等に対して

(1) 教職協働

実効性ある中期的な計画の策定・実行・評価(PDCA サイクル)による大学価値向上を確実に推進するため、教員と事務職員等は、教育研究活動等の組織的かつ効果的な管理・運営を図るため適切に分担・協力・連携を行い、教職協働体制を確保します。

(2) ユニバーシティ・ディベロップメント

全構成員による、建学の精神・理念に基づく教育・研究活動等を通じて、私立大学の社会的価値の創造と最大化に向けた取り組みを推進します。

① ファカルティ・ディベロップメント:FD

ア 3つの方針(ポリシー)の実質化と教育の質保証の取り組みを推進するため、教員個々の教育・研究活動に係る PDCA を毎年度明示します。

イ 教員個々の教授能力と教育組織としての機能の高度化に向け、学長のもとに FD 推進組織を整備し、年次計画に基づき取り組みを推進します。

② スタッフ・ディベロップメント:SD

ア 全ての教員・事務職員等はその専門性と資質の向上のための取り組みを推進します。

イ SD 推進に係る基本方針と年次計画を定め、計画的な取り組みを推進します。

ウ 教職協働に対応するため、事務職員等としての専門性、資質の高度化に向け、年次計画に基づき業務研修を行います。

4-3 社会に対して

(1) 認証評価及び自己点検・評価

① 認証評価

平成 16(2004)年度から、全ての大学は、7 年以内ごとに文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが法律で義務付けられました。本学も評価機関の評価を受審し、

評価結果を踏まえて自ら改善を図り、教育・研究水準の向上と改善に努めます。

② 自己点検及び評価結果等を踏まえた改善・改革(PDCA サイクル)の実施

教育目標や組織目標の実現に向け、それらの目標の達成状況及び各種課題の改善状況等に関する定期的な自己点検・評価を実施し、その結果を踏まえた改善・改革のための計画を策定し、実行します。

③ 学内外への情報公開

自己点検や改善・改革に係わる情報及び保有する教育・研究をはじめとする各種情報資源を、刊行物やホームページ等を通じて積極的に公開することにより、学内外の関係者及び社会に対する説明責任を果たします。

(2)社会貢献・地域連携

① 資源を活用し、社会の発展と安定に貢献するため、教育・研究活動の多様な成果を社会に還元することに努めます。

② 産官学の組織的連携を強化し、「知の拠点」としての大学の役割を果たすとともに、産学、官学、産産等の結節点として機能します。

③ 地域の多様な社会人を受け入れるとともに、時代の要請に応じた生涯学習の場を広く提供します。

④ 大規模災害への対応として、日常的に地域社会と減災活動に取り組めます。

⑤ 環境問題を始めとする社会全体のサステナビリティを巡る課題について対応します。

4-4 危機管理及び法令遵守

(1)危機管理のための体制整備

① 危機管理体制の整備と危機管理マニュアルの整備に取り組めます。

ア 大規模災害

イ 不祥事(ハラスメント、公的研究費不正使用等)

② 災害防止、不祥事防止対策に取り組めます。

ア 学生等の安全安心対策

イ 減災・防災対策

ウ ハラスメント防止対策

エ 情報セキュリティ対策

オ その他のリスク防止対策

③ 事業継続計画の策定に取り組めます。

(2)法令遵守のための体制整備

① 全ての教育・研究活動、業務に関し、法令、寄附行為、学則並びに諸規程(以下「法令等」という。)を遵守するよう組織的に取り組めます。

- ② 法令等に違反する行為又はそのおそれがある行為に関する教職員等からの通報・相談（公益通報）を受け付ける窓口を常時開設し、通報者の保護を図ります。

第5章 透明性の確保（情報公開）

私立大学は、日本における高等教育の大きな担い手であり、公共性が高く、社会に質の高い重要な労働力を提供する機関であることを踏まえ、法人運営・教育研究活動等について、透明性の確保にさらに努めます。

私立大学は、多くのステークホルダーから支持されることが必要ですが、大学の目的は教育・研究・社会貢献等多岐にわたっており、それぞれに異なるステークホルダーが存在することを踏まえた上で、法人運営・教育研究活動の透明性を確保します。

私立大学は、高等教育を担う公共性の高い機関であることから、企業のように、利益を追求する「株主への説明責任である」との位置付けとは異なり、法人運営・教育研究活動の公共性・適正性を確保し、透明性を高める観点からステークホルダーへの説明責任を果たします。

5-1 情報公開の充実

（1）法令上の情報公表

公表すべき事項は学校教育法施行規則（第 172 条第 2 項）、私立学校法等の法令及び日本私立大学団体連合会のガイドライン等によって指定若しくは一定程度共通化されていますが、公開するとした情報については主体的に情報発信していきます。

① 教育・研究に資する情報公表

ア 大学の教育研究上の目的

イ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

ウ 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

エ 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

オ 教育研究上の基本組織

カ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績

キ 入学者の数、収容定員、在学学生数、卒業又は修了者数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況

ク 授業科目、授業方法及び内容並びに年間の授業計画

ケ 学修成果に係る評価及び卒業又は修了認定に当たっての基準

コ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境

サ 授業料、入学料等の大学が徴収する費用

シ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

ス 学生が修得すべき知識及び能力

② 学校法人に関する情報公開

- ア 財産目録・貸借対照表・収支計算書
- イ 寄附行為
- ウ 監事の監査報告書
- エ 役員等名簿(個人の住所に係る記載の部分を除く)
- オ 役員報酬に関する基準
- カ 事業報告書

(2)自主的な情報公開

法律上公開が定められていない情報についても、積極的に自らの判断により努めて最大限公開します。

① 教育・研究に資する情報公開

- ア 海外の協定校及び海外派遣学生者数
- イ 大学間連携
- ウ 地域連携並びに産学官連携

② 学校法人に関する情報公開

- ア 事業計画書

(3)情報公開の工夫等

- ① 私立学校法に基づき、各事務所に備え置く書類は、請求があれば閲覧に供します。
- ② 情報公開に当たっては、対象者、方法、項目等を明らかにした情報公開方針を策定し、公開します。
- ③ 公開方法は、インターネットを使った Web 公開の他、大学ポータル、学校要覧、入学案内、広報誌、各種パンフレット等の媒体も活用します。
- ④ 公開に当たっては、分かりやすい説明を付けるほか、説明方法も常に工夫します。